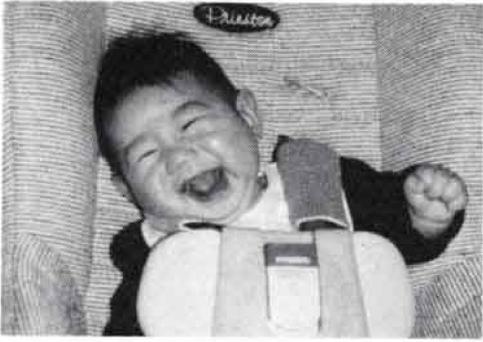




富士市のギネス
ほんのち No.1
昨年の名前 ユウタ ユウスケ ユウちゃんが一番



△ぼくもユウちゃん
平成元年七月五日生ま
れの菊池悠太君(厚原)

さて、今回は名前のお話。1989年1年間に富士市で生まれた赤ちゃん2527人(男1265人・女1262人)につけられた名前のベスト10を紹介します。まずは男の子編から。(女の子編は次回)

順位	名前(人数)	6	ショウタ (23)
1	ユウタ (31)	7	ユウヤ (21)
2	ユウスケ (30)	8	ケイスケ (19)
3	ユウキ (29)	9	ケンタ (17)
4	タクヤ (26)	9	タクミ (17)
5	タカヒロ (25)	9	リョウタ (17)

ユウで始まる名前がベスト10に4つ入りました。スケやタ、ヤで終わる名前が多いのも最近の特徴です。同じ字では健太が15人で一番でした。



消防団が名誉な表彰
ビッグなまといを受ける

富士市消防団は二月十四日、日本消防協会から定例表彰の最高位である「特別表彰まとい」を受賞しました。この表彰は全国三千七百の消防団の中から特

ので、大変名誉なことです。

まといの高さは二メートル、重さは二十キロ近くあって、まとい頭には純金箔が施されるなど、豪華で立派なものです。

三月二十一日には吉原市民会館で、八百六十六人の団員に披露される予定です。

「TEPCOホール富士」を
個展やグループ活動に

東京電力富士営業所(吉原一丁目)の新社屋が完成し、その中に趣味や文化活動の発表の場として無料で利用できる「TEPCOホール富士」がオープンしました。

吉原本町通りに面したギャラリ―は、約百平方メートル。明るく落ち着いた雰囲気があり、趣味活動の個展やグループ展にぴったり。二階にはクッキングサロンやカルチャールームもあります。詳しくは

五二一四〇八〇へ。



△2階のクッキングサロン



△タイプライターに向かう宏子さん

「先生は笑わせマン」
優しさに浸れる本

横割にある、心身障害者小規模授産所「竹の子」に通う大沢宏子さんが、本を出版しました。題して「先生は、笑わせマン」(偕成社)。養護学校当時の担任、渡辺嘉孝先生との交換日記です。

宏子さんは重い障害のため、タイプライターがコミュニケーションの手段。日記もタイプライターを使って書き続けました。人は、十人十色。その違いを認め合うのが優しさなのでは、と問いかけています。

また、子供たちは二人一組で一般家庭にホームステイし、アメリカ人の生活を肌で感じてきます。

「のぼら」など世界的に有名な歌から「かごめ」通「りやんせ」など日本の童歌まで幅広く披露する予定で、お手玉や羽子板などの遊びも紹介してきます。

「おなかから声を出して！」辻村さんの声が響くと、子供たちの輝く視線が集まります。「子供たちにとって、歌の面でも私生活でもよい励みになっていきますね」と辻村さんが言うように、練習場は活気にあふれています。

今回訪れるのは、アメリカの西部、ワシントン州バンクーバー市やオレゴン州スプリングフィールド市などで、一行は小四から高二までの四十五人。現地の少年少女合唱団と交流会を持つのを初め、学校やシティホールで演奏し、交流を深めます。



△練習は週二回、二時間ぐらい

サブリーターの熊谷志保さん(高一)は「童歌をいろいろアレンジして歌いますので、アメリカ人の反応が楽しみです。音楽は世界共通。言葉は通じなくても、それなりに交流ができると思います」と胸を膨まさせています。三月十七日には、吉原市民会館で渡米記念コンサートが開かれます。



富士の童歌をアメリカで

富士市少年少女合唱団の皆さん

富士市少年少女合唱団(辻村典枝代表)は、三月二十四日から四月二日までアメリカに演奏旅行に出かけます。今回は、渡米を控え、ますます熱のこもる練習場へおじゃましました。